

5 - 12 森～御前崎間の重力変化

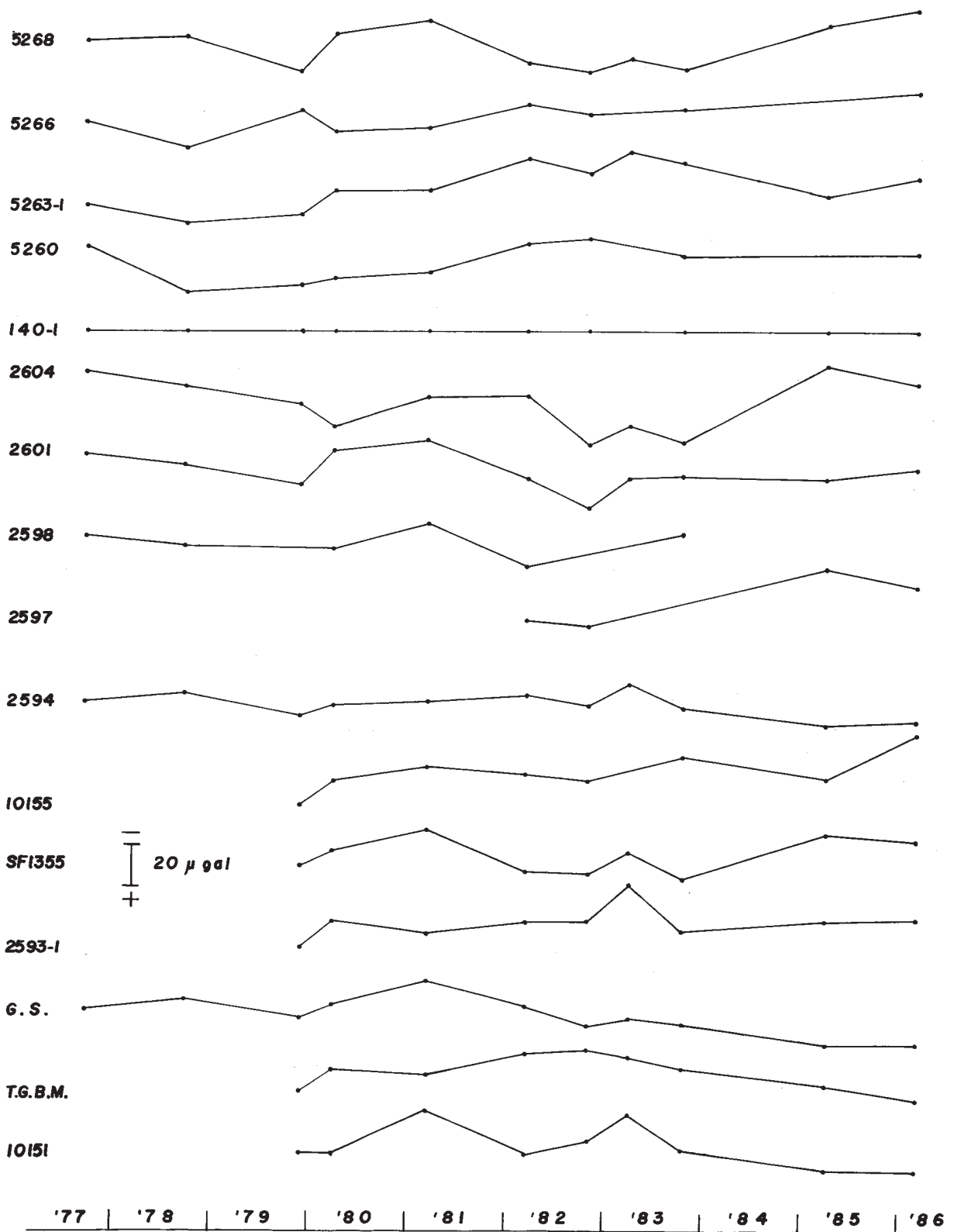
Change of Gravity in the Region between Mori and Omaezaki

京都大学理学部

Faculty of Science, Kyoto University

森～御前崎間の水準路線において、第12回（1985年3月）及び第13回（1986年3月）の重力の精密測定を実施した。第11回までは、京大理学部と東大地震研究所との共同で測定を行ったが、第12回と第13回は京大理学部の単独測定である。使用した重力計は第12, 13回とも、3台のLacoste重力計G - 196, G - 534 及びG - 605 である。

第1図は、掛川の水準点140 - 1の重力値を不変と仮定して、第3回の測定（1977年9月～10月）以後の各水準点にわたる重力の経年変化を示したものである。重力の測定値は大気圧の変動、地下水位の変動、測定点の水準の季節変動及び海洋潮汐等によって影響されるので、地殻変動に起因する重力変化を検出するためには、これらの原因による影響を補正しなければならないが、ここではそれらの補正は一切行わず、測定値そのものを示している。そのために、一見非常に不規則な変化を示しているが、個々の変化を無視して全体を概観すると、掛川より北側地域の4つの水準点では重力値が徐々に減小し、掛川より南側地域の水準点では極めてわずかながら重力値の増大が見られる。このことは、掛川に対して御前崎の地盤が相対的に沈降していることと符合しており、逆に森町方面は相対的に隆起して、しかも、前者より後者の変動速度がやや大きいことを示している。



第1図 森～御前崎間の重力の経年変化。水準点140-1の重力値を不変と仮定している。

Fig. 1 Secular change of gravity in the region between Mori and Omaezaki. Gravity value at the bench mark 140-1 is assumed as invariable during the period.